

国語科学習指導案

日時 平成29年11月15日(水) 5校時
学級 1年A組(男9名 女13名 計22名)
場所 1年A組教室
授業者 菊池 一枝

1 単元名

故事成語を使って体験文を書こう

<5 いにしへの心に触れる 「今に生きる言葉」(光村図書 国語1)より>

2 単元について

(1) 目標

- ・漢文の文章に関心を持ち、どのような言葉があるのか、調べたい言葉を挙げるができる。(関心・意欲・態度)
- ・よく使われる故事成語を使って体験文を書くことができる。(書くこと(1)ウ)
- ・「矛盾」の現代語訳を参考に読み、故事の内容を理解することができる。(読むこと(1)ア)
- ・文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア(ア))

(2) 生徒観

生徒は、これまでの学習において、文章の構成や表現の特徴について自分の考えをもつ学習、身近な対象から説明する題材を探し、目的に応じた具体的な執筆活動によって分かりやすく説明する学習等を行ってきた。どの学習に対しても意欲的に取り組む姿勢があるが、自分の考えを表現する活動に苦手意識をもつ生徒も見られる。グループ活動にも協力して取り組んでいるが、グループ間で活動に差が見られる部分もあるため、編成の仕方を工夫しながら指導してきた。

平成29年7月、10月に実施した学習に関するアンケートの結果は次の表ようになった。

項目	7月(21名)	10月(22名)
①あなたの好きな教科をすべて選んでください(複数回答可)	国語 14名(66%)	国語 14名(66%)
②授業が楽しいか(楽しい・やや楽しい・あまり楽しくない・楽しくない)	楽しい 18名(85%) やや楽しい 3名(14%)	楽しい 20名(91%) やや楽しい 2名(9%)
③授業がわかるか(わかる・ややわかる・あまりわからない・わからない)	わかる 19名(90%) ややわかる 2名(9%)	わかる 20名(91%) ややわかる 2名(9%)
④習ったことができるか【役に立つ、使えるを含む】 (できる・ややできる・あまりできない・できない)	できる 15名(71%) ややできる 6名(28%)	できる 17名(77%) ややできる 5名(23%)

項目	7月(21名)	10月(22名)
①	国語 14名(66%)	国語 14名(66%)
②	楽しい 18名(85%) やや楽しい 3名(14%)	楽しい 20名(91%) やや楽しい 2名(9%)
③	わかる 19名(90%) ややわかる 2名(9%)	わかる 20名(91%) ややわかる 2名(9%)
④	できる 15名(71%) ややできる 6名(28%)	できる 17名(77%) ややできる 5名(23%)

「国語がわかる」と考えている生徒はほぼ10割、「国語ができる」と考えている生徒は7割を超えている。どの生徒も「わかるようになりたい・できるようになりたい」という意識をもちながら、おおむね意欲的な態度で授業に臨んでいる様子が見受けられる。

また、古典の学習については、小学校で音読に取り組むなど、すでに古典に触れており、事前の意識調査は以下のとおりである。

質 問	回 答	人 数
小学校のときの「古典」の学習は好きでしたか。	好き	10人 (45.5%)
	どちらかと言えば好き	10人 (45.5%)
	どちらかと言えば嫌い	0人 (0%)
	嫌い	2人 (1%)

「好き」「どちらかといえば好き」の理由としては、「みんなと音読するのが楽しい」「今と違う文字や言葉があってもおもしろい」「初めて見る表現があるので、とても気になる」というものであった。「嫌い」の理由としては、「言葉が難しい」「よくわからない」というものが挙げられた。なお、ここに関わる小学校学習指導要領に示された内容は次の通りである。

<p>[第5学年及び6学年]</p> <p>【B 書くこと】</p> <p>ウ 事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>ア 伝統的な言語文化に関する事項</p> <p>(ア) 親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章について，内容の大体を知り，音読すること。</p> <p>(イ) 古典について解説した文章を読み，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p>

(3) 教材観

1学年では、中学校国語の古典学習の導入として、前段の「いろは歌」、「月に思う」、「蓬萊の玉の枝」において歴史的仮名遣いのきまりや音読に取り組み、古文の基礎的事項を学習する。それを受けて、本単元である「今に生きる言葉」で漢文の訓読法を学び、漢文の基礎的事項について学習した後、調べた故事成語を使って自分の体験について短い文章を書く。

故事成語は、中国の寓話などをもとにして作られた慣用語句である。物事の由来や観念・訓戒など、生きていく中での教訓を婉曲に示唆したり、入り組んだ意味を簡潔に表現したりする言葉として現代に語り継がれている。日本でも中国の古典とともに、親しみ使われている言葉が多く、中には日本のことわざとして定着したものも多い。

これらのことから、古典の世界についての興味や関心を高め、さらに古典の世界を広げるために適している教材であると考えられる。

(4) 指導観

学習指導要領では、小学校から中学校における古典学習に連続性をもたせており、中学校の内容と重なる部分も多い。小学校の学習内容をふまえ、より一層古典に親しませながら、古典に対する関心を深めるような学習を行うことが大切である。

そこで本単元では、導入部分での音読や暗唱を通して漢文特有のリズムに慣れさせ、漢文への興味・関心を高めたい。また、訓読の学習をとおして、中国から入ってきた文化を、なんとかして日本語で読もうとした先人たちの努力に気づかせたい。

故事成語については、教科書に取り上げられた「矛盾」の故事を使って、中国語を日本語として読みこなすために日本人が考え出した訓読の仕方や、漢文書き下しの文体に親しませ、古典の世界に触れさせたい。そして、故事成語がもつそれぞれの故事を、自分の生活経験に置き換えて体験文を書く活動を通して、日常生活において身近な親しみのもてる言葉として故事成語が生きているこ

とをとらえさせたい。

(5) 指導と評価の計画

時間	学習活動	留意点	評価規準	備考
1 見通す	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「今に生きる言葉」を読み、漢文独特の言い回しに慣れる。 ○現代語訳を読み、「矛盾」という言葉はどんな故事からどのような意味で使われているか理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を想起させたり、本文を繰り返し音読させたりすることで関心を喚起する。 ・ワークシートを使い、理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつことができる。(関・意・態) ・「矛盾」の現代語訳を参考に読み、故事の内容を理解することができる。(読) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元学習シート
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「矛盾」以外の故事成語の由来や意味をまとめる。 ○自分が選んだ故事成語を使って、体験文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な故事成語や小学校で学んだ故事成語などを取り上げ、そのもとになった話を紹介して興味をもたせる。 ・国語辞典、学校図書館等を活用し、故事成語について調べさせる。 ・具体的な場面設定を示し生活を振り返らせることで考えを広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語に関心を持ち、言葉の由来や意味について調べようとしている。(関・意・態) ・故事成語の意味を正確にとらえ、体験文を書くことができる。(書) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元学習シート
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○体験文の下書きをグループで交流し、推敲する。 ○交流したことをもとに清書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み合い、視点をもとに交流させる。 ・交流を生かして清書させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での交流に積極的に参加し、意見を述べている。(関・意・態) ・交流を踏まえて、自分の原稿を推敲し、分かりやすい文章にしている。(書) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元学習シート
4 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ○完成した体験文を交流し、感想を伝え合う。 ○単元の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の観点を示し、感想を伝え合うことができるようにする。 ・教科書の観点にもとづき、単元の振り返りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる、ものの見方や考え方を理解している。(読) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元学習シート

3 本時について

(1) 目標

故事成語について自分の体験と関連づけて考え、体験文を書くことができる。

(2) 評価規準

(国語への関心・意欲・態度)

グループ内での交流に積極的に参加し、意見を述べている。

(書く能力)

交流を踏まえて、自分の原稿を推敲し、分かりやすい文章にしている。

(3) 指導の構想

自分が選んだ故事成語を使い、体験文を作成する。考えられる場面設定を明示することで個人の生活を振り返らせ、スムーズな作文のストーリー作成につなげたい。グループ内での交流では、共感できることや、表現の推敲が必要などをお互いに指摘し合うことで、よりよい文章を書き上げることに生かすよう促す。

(4) 展 開

過程	学習活動	留意点	評価の方法と規準
見 通 す 5 分	1 本時の学習課題と学習過程を確認する。	○ホワイトボードで学習過程を提示し、学習の見通しをもたせる。	
	下書きをグループで交流・推敲し、体験文を完成させよう。		
学 習 活 動 4 5 分	2 自分で選んだ故事成語の意味・由来をもとに作成した体験文をグループ内で交流する。 3 交流をもとに清書する。	○文章を読み合い、「故事成語の意味を正しくとらえているか」「身近な場面・話題か」「なるほどと共感できるストーリーか」等の視点で交流するよう指導する。 ○同じ故事成語を選んだ生徒でグループを構成し、視点に沿って考えを深めることができるようにする。 ○交流したことを生かして清書するよう助言する。 ○書き終えた生徒は、終わった生徒同士で読み合いをさせる。	【関】 グループ内での交流に積極的に参加し、意見を述べている。(交流の様子) 【書】 交流を踏まえて、自分の原稿を推敲し、分かりやすい文章にしている。(体験文の内容)
振 り 返 る 5 分	4 活動を振り返る。	○本時の学習を振り返り、進歩したことやまだ不足していることを自分の言葉で表現させる。	

(5) 板書計画

